

高山市伝統的建造物群保存対策調査

建造物研究室では、2001・2002年度の2カ年をかけて岐阜県高山市の伝統的建造物群保存対策調査をおこなっています。この調査は、重要文化財の日下部民芸館と吉島家が並ぶ地区を含む、^{しもにのまち}下二之町・^{おお}大^{じん}新町地区を対象に、新たな伝統的建造物群保存地区（伝建地区）としての価値を調査し、そしてその保存計画立案を準備することを目的としています。高山市にはすでに伝建地区に選定されている^{かみさんまち}上三町保存地区がありますが、実はこの地区の基礎調査も奈文研が1970年代に担当しており、30年越しの調査ということになります。



高山市下二之町の町並み

今回の調査の特徴は、高山市の旧都市域全体を調査し、既存の伝建地区、新規の伝建地区を高山の歴史的環境の総体のなかに位置づけようと試みているところにあります。そのため1次調査として、高山の旧城下町地区の建物を新旧にかかわらず悉皆的に調査し、2000棟以上にわたる調査票を作成しました。その結果、高山の都市変遷が建物を通して浮かび上がったのですが、同時に、高山町家の伝統が少しずつ形式を変えながらも現在に至るまで連綿と生き続けている様子が見えてきました。

この成果をふまえながら、2次調査として下二之町・大新町地区の町と建築を重点的に調査しています。この地区では、江戸から明治にかけて建てられた軒が深く二階のきわめて低い町家群が基本的な骨格をなしていますが、その他の各時代の形式の建物が重層的に混在しており、高山の都市・建築の特質を体現する町であるといえます。現在、住民の合意形成、保存計画の策定に向けて、高山市および住民と議論を重ねているところです。（文化遺産研究部）